

(99.10.20)

アメリカ、アメリカ、アメリカ

高部英明

17年ぶりに在米当時(アリゾナ大学、81-82年)の友人に会った。YukiさんとPeter。アリゾナ時代は2人共貧乏学生だった。ボロイ中古車をYukiさんがぶつけ、へこんだボディーをPeterが針金を突っ込み、引っ張っていた光景を思い出す。

10月2日、リバモア研の近くで開かれた「Frontier Science at the NIF = Episode I =」(NIFによる未踏の科学、エピソードI)の会議に出席するためサンフランシスコに着いた。市内にホテルを予約し、Yukiさんが近くに住んでいるので、電話をした。「久しぶり。ホテル、キャンセルして泊まりにおいでよ」と言われ、好意に甘えることにした。家はシリコン・バレーにあり、シャトルバスで1時間ほどの所。

着いたら、大きな湯のみで日本茶を出してくれた。昔の話、今の話。子供2人、とてもいい笑顔で初対面の私を迎えてくれた。何だかいつも会っているように思えてくる。Mickel君の少林寺拳法の練習に、近所のお寺の道場へつき合ったり、Stanford大学と一緒にぶらぶらしたり、で過ごした。

さて、10月4日、朝8時から会議がスタートした。「未踏の科学」に魅せられて174人も参加者があつた。会議はMITのPetrasso教授が主催、MITがスポンサーである。彼は「NIF Science Users Group」(NIF科学利用者グループ)のリーダー。NIFの15%の実験をこのグループが専有できている。従って、リバモア研はこのグループのために詳しい情報を提供、要求に応える義務がある。リバモア研からの実験、計測器、レーザー建設等の報告も、ユーザーのためのマニュアルの整備、レーザー波形等の要求の対応者リスト、計測器開発計画への参加の呼びかけ、といった具合に「利用研」を意識した報告であつた。リバモア研から「Make noise!」(皆さん、どんどん質問、要求、ぶつけて下さい、対応します)との発言があつた。

会議後半は6つの班に分かれ、作業会を行った。私は「実験天文学」の班に参加。結果として3つのテーマに絞り、国際共同研究を進めていくこととなった。宇宙物理理論のR. Klein (U. C. Berkley)から「大阪の計画にいくらでも協力する。しかし、大阪がリバモアと同じ実験をしても意味がない。大阪独自のテーマを出し、国際協力を推進すべきだ」と言われ、大いにうなずけるところがあつた。

今や、高強度レーザー科学の仲間内で国際競争する時代ではなく、国際分業で未踏科学の魅力高め、原子核、宇宙、素粒子といった他分野と、その科学の中身の魅力で競い合う時代を迎えつつあるのではなかろうか。

もう一つ大事な点。NIFは予算としては軍事研究のための装置である。この軍需と民需（基礎科学）との共存が可能か、という大問題がある。ロケット開発など60年代から大いに悩まされた問題である。「可能である」という強い発言がCaltechのKoonin教授（NIF計画のトリガーとなった”Koonin Report”で有名）よりあった。PetrasoはNIF科学利用者グループの国際化を進めたい意向である。レーザー研の科学者はどうするか。じっくり議論し、来年のEpisode IIを迎えたいものだ。

この会議、未来指向で、何を聞いても、見ても、話しても、ワクワクして来た。どんどん思考が一点に絞られ、モノカラーになっていくように思われた、かつての自分と比べ、その極採色にカルチャー・ショックを受ける思いであった。

3日間の会議を終え、宅間先生とサンフランシスコ湾に落ちる夕日を眺めながら夕食を共にした。OSA(Optical Society of America)の理事会のことや、今回の会議のこと、実験天文学のことなど。私の悩みも聞いていただきアドバイスを頂いたり、と、豊饒な時を共にし会議を締めくくっていただいた。

ところで、Peter君。「僕は来年には退職してアリゾナに帰ろうと思っているんだ」と。今のハイテク会社(Applied Material社)に入社(90年)した時から買い集めた会社の株が、当時1株3ドルが、会社が急成長した今では80ドル(私:え~~~~!)。もう退職しても生活には困らないだけの資産になった。「今度は趣味のため大学で勉強し直したいんだ」と。NRL(Naval Research Laboratory)のレーザー核融合部門のリーダーを長く勤めたあのS. Bodnerも60才にして今はNorth Carolina大学でQED(量子電気力学)を勉強している。私も、そろそろ、残された人生を、いかに個性豊かに充実させるか考える年齢になって来たようだ。